

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ JRRN 会員寄稿記事.....	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	12
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介.....	13

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生」現地研修会（全3回）を実施しました

9月より現地関係者との企画調整に着手し、一気に準備を進めてまいりました今年度全3回（第9回～第11回）の「小さな自然再生」現地研修会を、公益財団法人河川財団の河川基金助成を受けて11月後半に実施致しました。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、当初予定していた規模を縮小しての少人数での開催となり、予約申し込みを頂きながら会場定員都合から多くの方々にお断りさせて頂く結果となりましたこととお詫び致します。

各開催地の共催及び協力団体の関係者各位、座学講義の講師や現地技術指導役としてご協力頂いた「小さな自然再生」研究会の専門家の皆さま、また運営をサポート頂いた学生チームと研修会参加者皆さまのおかげで、実に有意義な研修会となりましたことを御礼申し上げます。各研修会の概要は次頁以降でご紹介させていただきます。

(JRRN 事務局・和田彰)

【第9回「小さな自然再生」現地研修会～事前モニタリングで学ぶ土砂移動～】

◆日時：2020年11月13日（金） ◆場所：愛知県名古屋・矢田川 ◆参加人数：37名
◆主催：愛知県建設局河川課、矢田・庄内川をきれいにする会、「小さな自然再生」研究会、JRRN
河川環境改善を目的としたバープ工の設置が予定されている現場において、河道内地形の事前モニタリングのポイント、川の変化の履歴や洪水頻度、土砂移動等について座学と現地調査（河道内地形測量、河床材料調査、流速測定、生物調査等）を通じて学びました。



【第10回「小さな自然再生」現地研修会～多自然をモニタリングする～】

◆日時：2020年11月24日（火） ◆場所：秋田県大仙市・斉内川 ◆参加人数：33名
◆主催：（公社）全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会秋田県支部、「小さな自然再生」研究会、JRRN
◆協力：秋田県建設部河川砂防課、奥山ボーリング株式会社
2018年10月に設置した2基のバープ工周辺の河道内地形変化と生物生息状況について、座学と現地実習を通じて評価し、川づくりの物理環境と生物環境のモニタリングについて学びました。また、斉内川上流部に設置されたすずかけバープの視察も行いました。



【第11回「小さな自然再生」現地研修会～森と川の繋がりを考える～】

◆日時：2020年11月28日（土） ◆場所：京都府美山町・美山川 ◆参加人数：32名
◆主催：NPO法人芦生自然学校、「小さな自然再生」研究会、JRRN
◆協力：美山漁業協同組合
魚類、またその餌となる水生昆虫を増やしていくことを目指し、森と川のつながりについて座学で学び、小魚や水生昆虫の餌場となる石積みによる「落ち葉だまりづくり」を参加者で実演しました。気温5度の寒さの中、2基の捨て石バープを手づくりで仕上げ、落ち葉を流しての実験を行いました。



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト－「第 9 回現地研修会@愛知県・矢田川」開催報告

第 9 回の現地研修会では、「矢田川バープ工（ばーごう）プロジェクト」で河川環境改善を目的としたバープ工の設置が予定されている現場において、河道内地形の事前モニタリングのポイント、川の変化の履歴や洪水頻度、土砂移動等について座学と現地調査を通じて学びました。

矢田川バープ工プロジェクトとは、愛知県を流れる庄内川水系・矢田川において、低水路が固定された単調な河川環境へバープ工を設置することにより、流れに変化を生じさせ、河川環境を改善することを目的としたプロジェクトです。今年度は、矢田川にバープ工 1 基を設置することを目標としています。このプロジェクトでは、メンバーで検討を行い、バープ工の設計や施工方法等を決めていくこととしており、「バープ工の効果把握するために、設置前に事前調査を行うこと」、「モニタリングの方法を決めて毎年行い、効果の推移を把握すること」も重要な課題に位置付けています。

＜参考＞矢田川バープ工プロジェクト

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/yadagawabarb.html>

本研修会では、来年にバープ工の設置が予定されている矢田川の現場を対象に、プロジェクト関係者や一般参加者と共に、工事前に実施すべきモニタリングについて学びました。



午前の部は座学で、河道内地形の事前モニタリングとして評価すべきポイント、川の変化の履歴や洪水頻度、土砂移動等の『川の見方』について、一部、演習も交えて学びました。

午後の部は、バープ工設置予定地の現場に移動し、河川の横断測量、河床材料調査（ペブルカウント法）、流速測定、四つ手網による生物捕獲、等の調査を実施しました。

第 9 回「小さな自然再生」現地研修会 ～事前モニタリングで学ぶ土砂移動～ 【プログラム】

10:00-12:00

＜午前の部：河道内地形の事前モニタリングを学ぶ座学研修＞

開会挨拶（岡島充典：愛知県建設局河川課長）

矢田川を対象した『川の見方』について

（原田守啓：岐阜大学 流域圏科学研究センター）

＜矢田川の本来の姿と現在の姿

／洪水頻度や土砂移動の分析方法

／iRIC による河道内地形の変化予測 等＞

～矢田川へ移動～

13:30～15:30

＜午後の部：事前モニタリングの現地調査＞

矢田川バープ工設置前の事前モニタリング調査

＜地形、水深、流速、河床材料 等＞

（調査指導：原田守啓（同上）、

岩瀬晴夫（株）北海道技術コンサルタント）

15:30 閉会



（JRRN 事務局・澤田みつ子）

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「第 10 回現地研修会@秋田県・斉内川」開催報告

2020 年 11 月 24 日（火）、第 10 回「小さな自然再生」現地研修会を秋田県仙北市の「道の駅なかせん」にて開催致しました。主催には(公社)全国土木コンクリートブロック協会 東北地区協議会 秋田県支部に加わっていただくとともに、秋田県建設部河川砂防課及び奥山ボーリング株式会社の協力により開催し、地元の自治体や民間会社、市民団体など 33 名の参加者にお越しいただきました。

遡ること 2 年前、2018 年 2 月に「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」をテーマに第 8 回「小さな自然再生」現地研修会を開催し、この時の参加者のアイデアに基づき、同年 10 月に 2 基のバープ工が約 80 名の手づくりで設置されました。今回の研修会では、設置から 2 年後のバープ周辺の河道内地形変化や生物生息状況を座学と現地実習を通じて評価し、川づくりのモニタリングについて参加者とともに学びました。



斉内川現地

(1) 川づくりのモニタリングに関する座学研修

■「斉内川におけるバープ工設置の経緯説明」

(佐々木英樹：秋田県建設部河川砂防課)

これまで開催してきた多自然川づくりに関する 3 回の研修会開催やその結果として設置したバープ工整備の経緯について説明していただきました。

■「生物のモニタリングと生息地評価」

(三橋弘宗:兵庫県立人と自然の博物館)

小さな自然再生とはなにか、という基本的なところから、生物のモニタリングの手法と生息環境の評価手法について、最新の知見も交えて説明していただきました。特に、環境 DNA 調査により現地の水から生息している生物種がわかるという話や、水中カメラや赤外線カメラによる魚の観察や湧水の発見が可能という話について、参加者も興味深く聞いていました。

■「河川の地形と物理環境のモニタリング・評価」

(原田守啓:岐阜大学流域圏科学研究センター)

斉内川の縦断特性や瀬淵、河床材料などの河川特性について、一般的な自然河川との比較から解説していただき、さらに iRIC によるシミュレーション結果を示しながら、バープ工法が当初の狙い通り河川環境の改善に寄与しているのかどうか、午後の現地実習に向けて参加者の興味と意欲を高めていただきました。

(2) 現地実習（生物及び河道内地形の簡易調査等）

昼食をはさみ、午後は現地実習を行いました。

三橋先生の指導の下、実際に水中カメラで川の中の観察を行ったり、赤外線カメラの映像から湧水箇所を推測したりするとともに、タモ網をもちいて水際や早瀬など環境の異なる複数地点での水生生物の採集を行いました。

また、原田先生は自ら現地上空からドローン映像を撮影し、さらに先生の指導の下、現地の環境区分を行ったうえで、「ペブルカウント」という簡易な河床材料調査手法を用いて参加者自ら各環境区分での河床材料の粒径について調査しました。

現地作業を終えた後は、座学会場に戻り、採取した生物の確認や、河川の物理環境の調査結果をもとに、バープ工設置前に比べ多様な河川環境が形成されていることを参加者全員で共有しました。

(JRRN 事務局・阿部充)



座学の様子

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「第 11 回現地研修会@京都府・由良(美山)川」開催報告

第 11 回の現地研修会では、「森と川の繋がりを考える」をテーマに、森と川のつながりについて座学で学び、小魚や水生昆虫の餌場となる石積みによる「落ち葉だまりづくり」を現場にて実践しました。

由良川の最上流域、美山町芦生（あしう）は、土地の 99% が森林に覆われ、林業や炭焼きなど、山の資源を活かした生業が営まれてきました。また、集落を流れる通称「美山川」では、川魚に由来する様々な河川文化が存在してきました。しかし、地域の方々のお話では、過去約 10 年間で魚の種類・数が減少していることを強く感じているといいます。

事前の現地調査を通じて、本研修会講師陣が魚の生育・生息に必要な多様な流れが土砂流入により失われている印象（瀬淵のメリハリが無い）や、シカの食害による河畔植生の乏しさも魚類や水生昆虫の生育・生息場所を奪っているとの印象を受けたことから、本研修会では、森と川とのつながりのメカニズムを理解した上で、水生昆虫が生息・生育できる環境づくりとして石積みによる「落ち葉だまりづくり」に取り組みしました。



午前の部の座学では、魚類やその餌となる水生昆虫の増加に寄与する鍵が、水生昆虫の餌となる「落ち葉」の存在であり、落ち葉が滞留し、一年以上落ち葉が残ることで水生昆虫の生育・生息場所となるという、森と川の相補的関係を学びました。また、落ち葉は小さなバープ工的な石組があることで貯留されることから、崩れにくく流れにくい石の置き方、角度、川の中で大きな石を動かす方法についてもレクチャーを受けました。加えて、石積みの設置条件の違いによる河道内地形の変化について iRIC による予測結果を共有しました。

午後の部では、最上流域の現場に移動し、単調な流れを改善して瀬淵を形成するために、石積みのバープを右岸側の上流側と下流側に 1 本ずつ計 2 本設置しました。下流側は前日に講師と地元関係者で試作した石積みのバープに対して研修当日に更に石を積んで強化し、上流側は研修会で新規に制作しました。これらバープで流れの変化を生み出し、落ち葉をキャッチする環境をつくり出しました。

第 11 回「小さな自然再生」現地研修会

～森と川のつながりを考える～

【プログラム】

10:00-12:00

＜午前の部：森と川のつながりを学ぶ座学研修＞

開会挨拶（井栗秀直：NPO 法人芦生自然学校理事長）

河川生態系における森林の役割（三橋弘宗：兵庫県立大学自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館）

壊れにくい石積みを作るには（竹内えり子：株式会社建設技術研究所 東京本社環境部）

～美山川（由良川上流部）へ移動～

13:00～16:00

＜午後の部：石積みによる落ち葉だまりづくり＞

（技術指導：三橋弘宗（同上）、竹内えり子（同上）、瀧健太郎（滋賀県立大学）、岩瀬晴夫（株）北海道技術コンサルタント）

16:00 閉会

石積みの落ち葉だまりは、土砂移動や洪水などの河川環境の変化によって形状が変化していくことが想定されることから、引き続きモニタリングと石の積みなおしを実施し、効果を維持していくことが期待されます。本研修会共催の NPO 法人芦生自然学校の環境学習プログラムとも結びつけて、次世代への継承や継続性も見据えて実施していく予定であり、引き続き地元関係者との協働を通じて、美山町芦生の豊かな川づくりに貢献していければと思います。



(JRRN 事務局・北澤史)



神通川

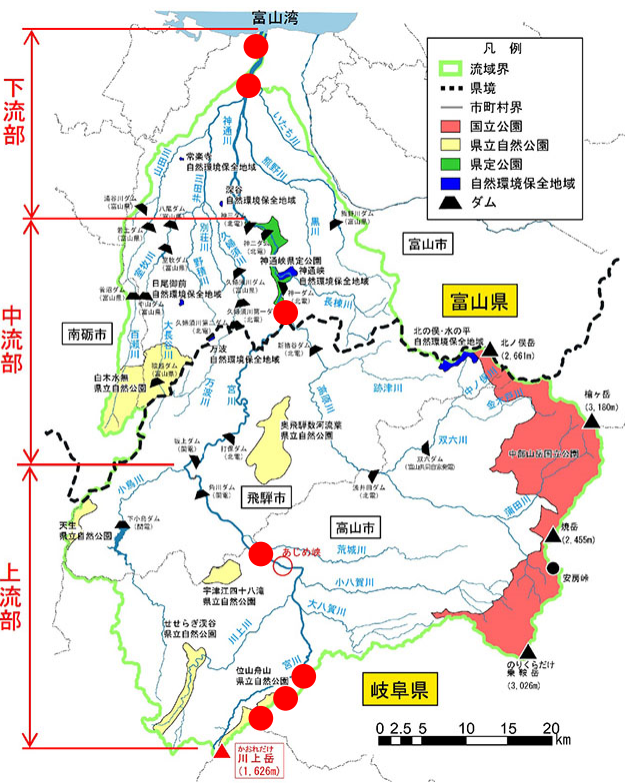
撮影：2020 年 9 月 10 日（富山県富山市 神通川河口）

大学院生、神通る川を下る(神通川)

寄稿者：松寺 駿（名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程 2 年・JRRN 会員）

大学院生の 川紀行

夏の終わり 夏の終わりには ただ貴方に会いたくなるの いつかと同じ風吹き抜けるから
『夏の終わり』 作詞：森山直太朗・御徒町風 作曲：森山直太朗）
大学院 2 年生，学生時代最後の夏休み。
社会人になる前に一つの川を上流から下流まで旅してみた



●：訪れた場所

図 1 神通川流域図
（国土交通省 神通川流域図をもとに筆者作成）

表 1 旅程

日時	場所
9/9	9:40 木曽川IC
	11:10 高山西IC
	11:30-12:30 昼食
	13:00-13:30 飛騨一宮水無神社
	13:50-14:05 位山
	14:15-14:30 分水嶺公園
	15:15-15:25 岐阜県古川町大野町の霞堤
	16:30-16:40 宮川、高原川合流点
	18:00-18:30 神通大橋
9/10	9:15-9:40 神通川下流
	10:00-10:10 神通川河口
	10:20-10:35 能登半島の川巡りへ

1. 川系男子と川巡り

2020 年 9 月 9, 10 日、学生最後の夏休みに神通川を訪れた（図 1、表 1）。私が神通川と聞いて最初に連想したのは、授業で習ったイタイイタイ病だった。しかし、その情報だけで神通川に対してマイナスイメージを持っているのはよくないことだと思った。これまで身につけてきた知識をもった上で、自分自身の目で神通川を見つめることにした。

今回の川巡りは土木研究所自然共生研究センターの川系男子、坂本貴啓研究員と一緒に臨んだ。川巡りをした日、私は夏休みであったが、坂本さんは夏休みをとった上で参加していた。社会人になると行きたい川に行くのも一苦労だ。夏休みを使って川巡りに付き合ってくれたことに感謝しつつ、今回の旅を楽しみたいと思った。

2. 神通る川

神通川はその源を岐阜県高山市の川上岳に発し、岐阜県内では宮川と呼ばれ、川上川、大八賀川、小鳥川等を合わせて北流し、岐阜・富山県境で高原川を合わせ、富山県に入り神通川と名称を改め、井田川、熊野川を合わせて日本海に注ぐ、幹川流路延長 120km、流域面積 2,720 km²の一級河川である。

また、神通川という名前の由来には大きく 2 つの説がある。一つは、川を挟んで鶴坂神社の神と多久比禮志神社の神が交遊されていたので、「神が通られた川」という意味から神通川と呼ばれたとする説。もう一つは、太古の昔、神々が飛騨の船津から乗船し、越中の笹津に着船されたことから神通川と呼ばれたとする説である。このような神聖な由来のある川であったとは知らなかった。せっかくなので神通川の分水嶺付近に位置する神社を訪ねた。

3. 飛騨一宮水無神社

2020 年 9 月 9 日、高山西 IC を降り、高山市の中心地を通って南へ移動すると、飛騨一宮水無神社が見えてきた。周囲を森に囲まれた、物静かな雰囲気的神社だった（図 2）。綺麗に管理されている。掃除をしていた神社の方にお話を伺った。

飛騨一宮水無神社は、御年神を主神に外十四柱を水無神として祀っている。水源と交通の要衝を鎮め、「作神様」としても美濃、真濃、越中など広い地域にわたって農業を奨励し民生の安定を進められた神様で、縁故地に多くの分社を擁する。神社の前を流れる宮川の水源の一つである位山は、日本を表裏に分ける分水嶺になっており、水主の神の坐す神体山としてこの神社の奥宮と称されている。険しい山道を車で 30 分ほど登って行くと、辿り着いた（図 3）。

山道を下った所には分水嶺公園があった。この分水嶺では、源流部の水がわずかな地形の変化で日本海、太平洋へと別れて流れていく。分水嶺の水を汲み、川の流れを感じながら河口まで運んで行くことにした（図 4）。



図 2 飛騨一宮水無神社



図 3 位山（飛騨一宮水無神社奥宮）



図 4 分水嶺公園

4. これが噂の霞堤ですか

宮川を下っていくと、古川町大野町で霞堤を見つけた。霞堤は堤防の下流端を開放して不連続堤にし、次の堤防の上流端を堤内地へ延長し上流の堤防と重複するように作られる河川構造物である（図5）。洪水時には開放部から水が堤内地へ逆流するが、その流速は小さい。また水を一時的に霞堤に溜め込むことにより、洪水調節効果を発揮する。平野部よりも急勾配河川で多くみられる。

突然だが、私は来年度から建設コンサルタント会社に勤務する予定であり、河川環境に関する業務に実務者として携わることを希望している。その就職活動を行うにあたって河川構造物に詳しくなっていた方がいいと、私に資料を見せてくれたのが坂本さんであった。あれから約1年後、その資料を使って教えて頂いた構造物の一つ、霞堤を坂本さん本人と見ることにとなるとは...（図6）。大野町の霞堤の周辺は盆地であったが、この地点から下流に下ると狭窄部が連続していた。そのため、霞堤のような治水施設が設置されやすかったのかもしれない。

宮川をさらに下流へ下っていくと、東から高原川が合流してきた（図7）。この合流点以降は神通川となる。合流点以降の狭窄部は神通峡と呼ばれ、富山県内有数の景勝地として知られている。残念ながら先を急いでいたため、駐車はせずに目で楽しむことにした。紅葉が美しいことでも有名なので、再び訪れた時の楽しみとしたいと思う。

5. 水辺で乾杯！

2020年9月9日午後6時6分。何の時間かお分かりだろうか。そう、「水辺で乾杯 2020」が開催された時間である。「水辺で乾杯」とは水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクト「ミズベリング」の象徴的なイベントである。例年は7月7日午後7時7分に身近な水辺に集い乾杯をするという、全国4.2万人による全国一斉ソーシャルプロジェクトである。今年はコロナ禍において「ニューノーマルを楽しむ」をテーマに、個人個人が自分の好きな水辺に行き、乾杯をするという形式で行われた。

私達もこのイベントに、神通川から参加しようと考えていた。しかし、運転中なのでお酒は飲めないから何で乾杯しようか、神通川のどのあたりで乾杯するのがいいだろうか、などあれこれ考えているうちに開催時刻が迫ってきた。最終的には、近所の酒屋でラムネを買い、ホテル近くの神通大橋の近くで乾杯することにした（図8）。このドタバタも後から振り返れば良い思い出である。



図5 霞堤（模式図）



図6 岐阜県古川町大野町の霞堤



図7 宮川、高原川合流点



図 8 水辺で乾杯！～神通大橋右岸側にて～



図 9 富山きときと空港



図 10 神通川下流



図 11 神通川河口

6. 川の中に空港！？

翌日の2020年9月10日、神通川のそばにある、富山きときと空港に立ち寄った。「きとき」とは富山弁で「新鮮な」という意味だそう。富山の新鮮な海の幸などの魅力を発信することを目的に、全国で初めて、方言を愛称に使用した空港らしい。

そして驚くべきことに、この空港は全国でも珍しく、河川敷の中に滑走路が走っていた（図9）。河川敷の利用の幅がここまで広がっていたとは知らなかった。ちなみに、大雨で滑走路が水没してしまった時は、飛行機を退避させるらしい。

7. 河口にて

その後、神通川の下流部を訪れた（図10）。源流部と比べると同じ川とは思えないほど川幅は広く、流量も大きく増加している。そして、2日にわたる川巡りの締めくりに、分水嶺で汲んできた水を河口で流した（図11）。源流部で流れていた水も、時間をかけてこの河口へ流れ着き、日本海へと注ぐ。上流と下流の長距離に及ぶつながりを体感する良い旅となった。

今回の川巡りを通して様々な河川環境や歴史について知り、私の神通川に対するイメージは大きく変わった。上流と下流の物理的・文化的なつながりを意識することは、現在取り組んでいる修士論文研究だけでなく、今後携わる業務にとっても重要になるであろう。学生最後の夏の終わりに良い旅ができた。

【筆者紹介】

松寺 駿（まつてら しゅん）

名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程 2 年、森林保護学研究室所属。愛知県の知多半島出身。小学生の頃の環境学習で河川環境に興味を持ち、現在は河川生態学に関する研究を行う。川のある風景が好きで普段から川巡りをしている。好きな川遊びはガサガサ。



青森県 奥入瀬溪流 2019.9 撮影



あの日のあの川 リレー日記 ～第 53 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 53 話主人公 松永知也

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：静岡県大井川)

「旅で気づいた 川と人」

いつのこと？： 高校時代から現在

どこの川？： 静岡県大井川・芝川、青森県奥入瀬溪流、長野県千曲川など

「川と人」

これは、私の所属している白川先生のゼミのテーマの一つです。そんな「川と人」について、私が深く考えるきっかけとなった出来事について、書かせていただきます。

私は、小さいころからなぜか旅が好きで、家族と電車や車を使っていろいろなところに旅行に行っていました。そして、高校生になると自分一人で旅がしたい、自分の脚だけでいろいろな場所に行きたいと考えるようになり、親にスポーツ自転車を買ってもらい、それを使って旅をするようになりました。そして、旅の目的地には川や水辺が選ばれることが多くありました。

例えば、自転車で使った初めての旅は、地元にある大井川を上流に向かって登っていき千頭という観光地に向かうというも

ので、自然の美しさと独力で目的地に着いたという達成感でとても感動したのを覚えています。次に行ったのは静岡県富士宮市にある白糸の滝(芝川)でした。ここもまた非常に美しく、土産物屋のおじちゃんも優しくとてもいい思い出になりました。ほかにも柿田川湧水や本栖湖など、様々な水辺が旅の目的地になりました。しかし、当時の私は、意識的に水辺を選んでいたわけではなく、景色のいい場所がたまたま水辺だったというだけで、そこまで深く川や水辺について考えていたわけではありませんでした。

そんな自分が川や水辺について深く考えるようになったのは、大学 2 年生の 9 月、東北へ自転車旅に出た時のことです。その旅は青森から南下していき東北六県を回るというもので、初日は新青森駅からスタートし、青森市街を南に抜け、八甲田の森の中に入っていました。そこは鬱蒼とした樹々が左右から道を覆って薄暗く、曇りだったために道路はうっすら湿っており、なんとなく心細さを感じながら自転車をこぎ続けました。そうしているうちに、木々の隙間からさらさらとせせらぎの音が聞こえるようになり、ついには開けた場所に出ました。そこに広がっていたのは水と緑が織りなす奥入瀬渓流の風景でした。その頃になると徐々に青空も見え始め、あたり一帯が神秘的な雰囲気を感じていました。それを見た私は、先ほどまでの心細さの反動と、風景の美しさでいたく感動し、川の偉大さを初めて実感しました。そして、川に興味を持ち始めました。ここで、今までの旅を改めて振り返ってみると、今まで美しいと感じた風景には川や水辺があるものが多いということに気づきました。また、その後東北の旅を続け、秋田・岩手・宮城…と通過する中で、広大な水田地帯の真ん中を川が流れている様、川に沿って街並みが作られている様、子供たちが小川で遊んでいる様を見て、人は川に支えられて生きているのだと感じました。そして、川についてもっと深く知りたいと感じるようになり、白川先生のゼミに入る決意を愛車のサドルの上で固めたのでした。こうして東北の旅は川への興味という大きな収穫とともに幕を下ろしました。



図 1 千曲川穂保地区の堤防上に積まれた瓦礫

それから 1 ヶ月ほどたった 10 月 13 日、衝撃的なニュースが飛び込んできました。令和元年東日本台風によって日本中で水害が発生したというニュースです。これを聞いて私は、被災地に行けば何か学びが得られるかもしれないと考え、特に被害が大きかった、長野県千曲川沿いの穂保地区に自転車で向かうことに決めました。そして 3 週間後の 11 月 3 日に被災地に入り、その様子を見学させていただきました。3 週間もたっていたので正直もうほとんど片付いているかと思っていましたが、まったくそんなことはありませんでした。むしろ瓦礫の山がそこら中にあり、道のうえには乾いた泥が積もり、壁や電信柱の胸ほどの高さのところには洪水が来た跡がくっきり残って生々しく、とても悲しくつらい気持ちになりました。そしてこのような災害は、日本中、川さえあればどこでも起こりうるものだと実感し恐怖を感じると同時に、川について学び研究することは社会にとって大きな意義があることだとも感じました。



図 2 穂保地区内の電柱

川には慈母としての側面と厳父としての側面があります。奥入瀬渓流の美しい風景や小川が子供たちの遊び場となっている様などは、川の慈母としての側面です。台風で暴れまわり住民に牙をむいた千曲川の様は、川の厳父としての側面です。そしてこの二面は表裏一体で、同じ川でも時には慈母となり、時には厳父となります。今私は、慈母としての川を最大限利用し、厳父としての川をよくなだめる、健全な「川と人」の関係を、かわまちづくりなどを通してつくっていけたらよいと考えています。このよ

うな考えを持つきっかけを旅は与えてくれました。これからいろいろな場所、いろいろな川を旅して、川についての知識や考えを深め、「川と人」が健全な関係をつくる際の手助けができる人間になれるよう努力していきます。

(次は山倉大輝さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.139

岡村幸二 (JRRN 会員)

水の郷の用水網： 子どもが水辺に降りやすく 水遊びや魚釣りを楽しめる



撮影：2020年10月（東京都日野市・向島用水親水路）

◆遊歩道の途中に水車やあずまやが設置

日野には、多摩川、浅川、程久保川の一級河川から取水する農業用水が9幹線あり、市内を網の目のように流れ田を潤すとともに、人々が自然と触れ合える親水水路として機能しています。

◆用水路への導水量の年間維持

日野市の各用水路では灌漑期、非灌漑期に関係なく、年間を通じて平均0.2m³/sの流れが確保されています。向島用水のビオトープ整備は、市民や近くの小学生が関わり、環境学習の場となっています。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2020 年 11 月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■「土木学会デザイン賞 2020」選考結果発表・授賞式開催案内 (1/23 開催)

土木学会デザイン賞 (正式名称: 公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会デザイン賞) において、2020 年度の最優秀賞, 優秀賞, 奨励賞の計 12 作品が決定しました。

また 2020 年度の授賞式を 2021 年 1 月 23 日 (土) に開催いたします。

表彰状授与式, 受賞者によるプレゼンテーション, 選考委員の講評や質疑応答を予定しております。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら, Web/対面併用での開催となります。

●2020 年度 授賞対象作品の詳細

<http://design-prize.sakura.ne.jp/award>

●選考委員による総評

http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result_comment

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3749.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■令和 2 年度 第 28 回リバーフロント研究所研究発表会 (12/16 配信開始)

公益財団法人リバーフロント研究所より今年度の研究発表会のご案内です。令和 2 年度研究発表会は、12 月 16 日 (水) 13:00 よりオンデマンド配信で開始いたします。

■日時: 2020 年 12 月 16 日 (水) 13:00~

■主催: 公益財団法人リバーフロント研究所

■プログラム: http://www.rfc.or.jp/pdf/event/R2hokokukai_program.pdf

■配信先 URL: http://www.rfc.or.jp/ivent2020_hokokukai.html

なお、「第 28 回リバーフロント研究所研究発表会」は土木学会継続教育(CPD)制度のプログラムに認定されています。

CPDを希望される方は、認定にあたり、開催・公開日時から 2 か月以内 (令和 3 年 2 月 15 日まで) に履修手続きが必要です。

履修方法についてご案内致しますので、視聴前にメールでお申込みください。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3788.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2020 年 11 月号) が事務局より届きました。

本号では、2021 年前半に RRC が主催する 4 回の研修の案内、市民科学の効果計測プロジェクトの紹介、また英国における河川再生に関わる行事やニュースが紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3784.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) NEWSLETTER」紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の技術ニュースレター最新号 (2020 年 11 月号) が事務局より届きました。

本号では、RRC (英国河川再生センター) が取組む欧州をフィールドとした Nature Based Solutions 調査の紹介、また 2021 年 5 月に開催する欧州河川シンポジウムが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3752.html>



会議・イベント案内 (2020 年 12 月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■ 第 14 回 公益財団法人河川財団 名古屋研究発表会

○日時：2020 年 12 月 9 日(水) 13:00~16:30

○主催：公益財団法人河川財団

○場所：名古屋銀行協会会館 5 階 大ホール (名古屋市中区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3145.html>

■ 応用生態工学会金沢 WEB 研修会「激甚化する豪雨災害に対する流域全体の取り組み」

○日時：2020 年 12 月 10 日 (木) 13:30-16:05

○主催：応用生態工学会金沢

○場所：オンライン (ZOOM ウェビナー)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3151.html>

■ 応用生態工学会 第 2 回テキスト勉強会 札幌開催「河道内氾濫原の保全と再生」

○日時：2020 年 12 月 10 日 (木) 13:00~17:30

○主催：応用生態工学会札幌

○場所：札幌教育文化会館 (札幌市中央区) / Zoom ウェビナー

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3142.html>

■ 応用生態工学会福岡 2020 九州地区事例・研究発表会

○日時：2020 年 12 月 10 日 (木) 13:00-17:20

○主催：応用生態工学会福岡

○場所：オンライン (ZOOM ウェビナー)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3153.html>

■ 第 4 回 iRIC オンラインワークショップ「密度流と結氷河川」

○日時：2020 年 12 月 22 日 (火) 16:00-18:00

○主催：一般社団法人 iRIC-UC

○場所：オンライン (ZOOM and YouTube ライブ)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3157.html>

■ いい川・いい川づくりワークショップ in 中部 2020 オンライン特別企画『ゆく川 くる川 川談義』

○日時：2020 年 12 月 26 日 (土) ~ 27 日 (日)

○主催：中部流域連携ネットワーク

○場所：オンライン (YouTube 配信)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3134.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

冊子等の紹介 *Publications*

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第 2 集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編 (第 2 集) の印刷製本版を普及中です。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集：「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成：吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン：本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 発行年月：2020 年 3 月

■ 送付申込受付中 → <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

本事例集の印刷製本版の送付をご希望の方は、送料 (250 円) のみご負担頂いた上で、2 冊を上限に無料でご提供致します。詳細は上記 URL をご覧ください。

■ 上記冊子の入手方法 ※PDF 版はこちらから: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

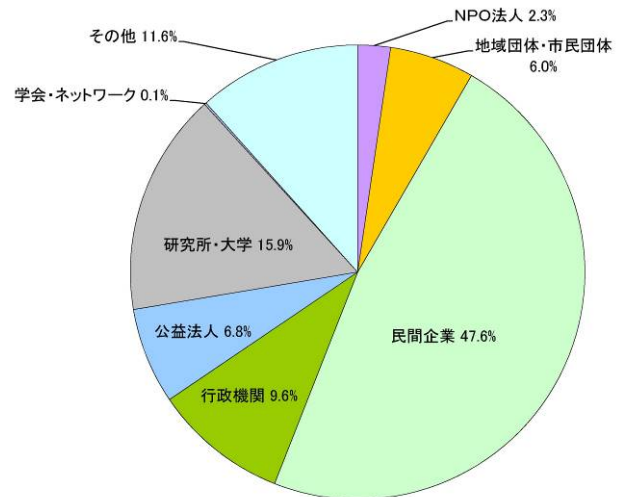
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2020 年 11 月 30 日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：812 名、団体会員数：60 団体)

※11 月の新規入会数： 個人会員 0, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRANが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>